

NY日本人学校の4年生 警察と消防車見学

ニューヨーク日本人学校(コネティカット州グリニッチ、小島昇校長)の4年生は5月21日、社会科移動教室でグリニッチにある警察署と消防署を訪れた。警察署では通信司令室や留置所、警察車両などを見学した。通信司令室には市内のパトカーや救急車の位置をGPSで把握したり、監視カメラの画像を映すモニターがたくさんあり、911に電話をすればこの場所につながることを教わった。子供たちは一教科書に載っていた通り「日本と同じだね」と驚きの声を上げた。また、通報を受けて必要に応じて消防にも指令を出し、一刻も早く現場に出動していることを学んだ。車両見学では現場検証に必要なものが搭載されている車両やSWATチームが乗る車両の大きさに驚いていた。



消防署と警察見学

NJ日本人学校の4年生 英語で質問事前に準備

ニュージャージー日本人学校(日井治久校長)の4年生が5月29日、社会科見学で、オークランド市の警察署と消防署を訪れた。警察署では裁判が行われる部屋で警察の仕事内容についてのビデオを視聴した後、担当の警察官の案内で署内の施設を見学。指紋をとるコンピュータや拘置所の見学、マグショット体験に興味が津々。特にパトカーの運転席や後部座席にある特殊な機器には全員が驚いた。警察署では地域の方のために24時間体制で働いていることが分かった。消防署では、レスキュー車、消防車、はしご車などの説明後、消防車に搭載さ

地元オークランドで

れたたくさんの道具の使い方や消火方法について丁寧に説明してもらい、実際に消防車の運転席に座らせてもらった。また、防火服や酸素ボンベを背負う体験で

音楽授業楽しく

育英サタデースクール

育英サタデースクールニュージャージー校(NJ州イングルウッドクリフス、半場綾子ディレクター)の小学部3年生が音楽の授業で初めてリコーダーを扱い、その吹き方を学習した。まずはリコーダーの持ち

は、その重さにびっくり。消防署で働く人の多くは、普段は別の仕事をしていたり、火災や事故があるとボランティアとして警察からの指令で出動すること。見学に向けて事前に質問する内容を英語で練習していたこともあり、当日はしっかりと英語で話をするこ

とができた。アメリカの警察署や消防署のしくみについて日本と比べながらたくさん学んだ。充実した1日となった。

楽しい 週刊NY生活 デジタル版 www.nyseikatsu.com

また、「茶摘み」の歌を勉強し、それに伴う手遊び歌にも挑戦した。「夏も近づくと十八夜、ボンボン!」子供



フレンズアカデミー 11日に進学相談会

フレンズアカデミー(西103丁目310番地)は11日(火)午前10時10分から、オープンハウス(全日)制たんぼ幼稚園・幼児教室・親子教室と進学相談会を実施する。

進学相談では、現地の日本の教育事情に精通している教師陣が現地の公立学校への進学や名門私立学校への進学のポイント(試験



ための準備、書類提出のタイミング、書類の書き方等について説明。また、日本の教育事情(私立学校への進学、公立学校進学への準備等)についても講演する。参加無料。申し込みは9日(日)までに電話212-935-8535、またはEメール Friendsyukuei@gmail.com。



あらゆる事態を想定し人命を救助するためのさまざまな道具が装備されていた。子供たちは熱心に見入り、その重さにも驚いていた。事前に英語で考えていた質問だけでなく、見学中に疑問に感じたことを質問していた。自分たちの安全な生活を支えるために多くの人がつながっていることを実感することのできる、有意義な社会科移動教室になった。

親子ピクニック
プリンストンで

プリンストン日本語学校(三井知之校長、生徒数339人)幼稚園は5月26日親子ピクニックを開催した。当日は晴天に恵まれたピクニック日和で、登園時

からうれしそうに子供たちの笑顔が見られた。三井校長の話聞いた後、親子で参加するクラス対抗「たまごレース」と「フラフープ&ボール遊び」が行われ、初めて体験するのゆり組(年中)、2度目のゆり組(年中)、そして最後の親子ピクニックとなるばら組(年少)親子が勝ちを競った。その後、キャバパス探検シールラリーで池を一周しながら3か所ある関所で先生からシールをもらい、事前にそれぞれが色塗りをした地図に貼ってゴール。最後にくじを引いて自分の好きな景品を選んで子供たちは、友達と見せ合い大喜びしていた。



リセ・ケネディ 虫歯予防講習会

秋本医師が指導

リセ・ケネディ日本人学校(高松さなえ校長)は5月30日、歯科医師の秋本浩子さんを招き、子どもと保護者向けに虫歯予防の講習会を行った。

白衣を着た「歯医者さん」を見て始めは少し緊張していた子供たちも、正しい歯のみがき方や虫歯になりやすい食べ物とに楽しく食

絵本『コインでつなく平和の鐘』絶賛発売中!

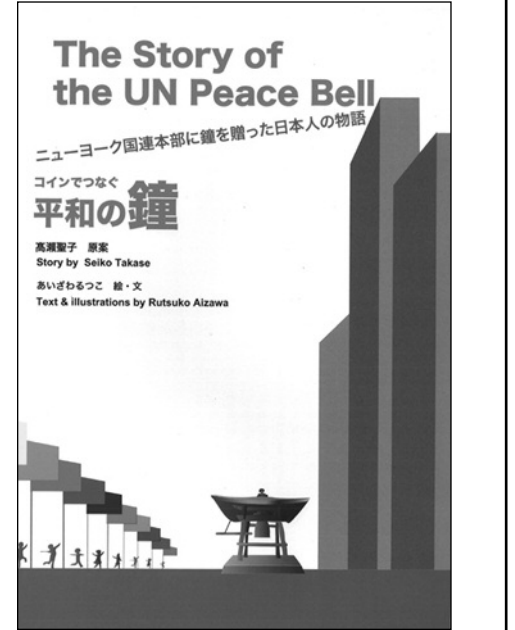
ニューヨークの国連本部ビルの日本庭園にある「平和の鐘」は、愛媛県宇和島市長を務めた中川千代治元日本国連協会愛媛県副本部長(1905~72年)が、日本が国連に加盟する前の1951年、パリにおける国連会議に出席した際に世界65か国から寄贈された各国代表のメダルや硬貨、ローマ法王からの寄贈メダルや日本の古銭などを加えて「平和の鐘」を作り、54年に日本国連協会の名の下に国連本部に寄贈したものです。2年後の56年に日本は80番目の加盟国となり国際社会に復帰。毎年9月末に国連事務総長がこの鐘を突いて国連総会の開幕を告げるのが長年の習わしで、この日は「国連平和デー」と呼ばれています。日本が国連に加盟して62周年を迎えた今年、この絵本は、日本から平和を訴える強いメッセージとなるでしょう。

The Story of the UN Peace Bell

In 1951, before Japan became a member of the UN, Chiyoji Nakagawa of Uwajima, Ehime Prefecture went to the UN Conference in Paris at his own expense. He then gathered coins and medals from the delegates of 65 nations who were participating in the conference, added a donative medal from the Pope as well as Japanese coins and cast the Peace Bell with all the pieces. The bell was donated under the name of the UN Association of Japan and installed in 1954; two years later, Japan officially became the 80th member of the UN. Every September on the International Day for Peace, it has become a tradition that the United Nations Secretary-General rings the bell to mark the opening of the UN General Assembly. This year marks the 62nd anniversary of Japan joining the United Nations, and the picture book conveys a significant message of peace from Japan.



取扱い店：国連本部地下書店
United Nations Bookshop
48th Street and 1st Avenue
Room GA-1B-103
Tel:212-963-7680
または週刊NY生活まで
電話212-213-6069
価格：\$23



発行元：国連平和の鐘を守る会
原案：高瀬聖子 絵・文 あいざわつこ
米国販売代理店：ニューヨーク生活プレス社